

平成26年度 事業報告

利用者へのサービスの向上、及び充実した支援を提供するため、平成26年度は以下の内容で事業に取り組みました。

1 法人

(1) 理事会評議員会の実施状況

ア 第34回理事会、第33回評議員会（平成26年5月17日）

(ア) 審議事項

- ・平成25年度事業報告（案）について
- ・平成25年度決算（案）について
- ・監事監査報告

(イ) 報告事項

- ・かたつむりの家利用者状況
- ・サポートセンターぱれっと利用状況
- ・利用者死亡（病死）による利用終了に関して

イ 第35回理事会、第34回評議員会（平成26年11月29日）

(ア) 審議事項

- ・理事及び監事の任期満了に伴う再選任（案）について
- ・評議員の選任（案）について
- ・職務代理者の選任（案）について

(イ) 報告事項

- ・おおいそ福祉会上半期事業経過について
- ・おおいそ福祉会前期予算執行状況について

ウ 第36回理事会、第35回評議員会（平成27年3月21日）

(ア) 審議事項

- ・平成27年度事業計画（案）について
- ・平成27年度予算（案）について
- ・職員給与規程の一部改正（案）について
- ・非常勤職員就業規則の一部改正（案）について
- ・経理規程の制定（案）について

(イ) 報告事項

- ・大磯町とのセンター使用契約についての協議経過について
- ・サポートセンターぱれっとの今後について

(2) 職員配置の状況

平成27年3月31日現在

	定数	常勤	非常勤	常勤換算	その他
法人	—	(1)	1	—	
かたつむりの家 就労継続B型	2.2	2	4	3.8	
生活介護	5.6	1 (1)	10	7.0	
ぱれっと事務所	2.5	1 (1)	0	2.5	
ヘルパー		0	6		
合計	—	4 (1)	21	—	

* (1) は、かたつむりの家管理者とぱれっとの管理者、事務局長の兼務

(3) 研修

ア 人権研修

- (ア) 日時 平成26年7月7日18:00~20:00
- (イ) テーマ 虐待の芽・目・眼 ~私たちの日常の支援を振り返る~
- (ウ) 会場 かたつむりの家 食堂
- (エ) 講師 市川和彦氏 (会津大学短期大学部社会福祉学科教授)
- (オ) 参加者 法人内17名、他法人3名

イ 医療研修

- (ア) 日時 平成27年2月4日17:00~18:40
- (イ) テーマ ①ピロリ菌について ②感染症について
- (ウ) 会場 かたつむりの家作業室
- (エ) 講師 安藤豪氏 (二宮胃腸内科クリニック院長、法人協力医)
- (オ) 参加者 法人内18名

ウ その他

- (ア) 神奈川県障害施設職員実践報告会へ参加 (2名)
- (イ) 企業内ジョブコーチ養成研修へ参加 (1名)
- (ウ) 神奈川県サービス管理責任者養成研修へ参加 (2名)

(4) 防災

災害や事故から利用者や職員を守るため、年間5回の防災訓練を実施しました。

4回は事業所単独実施（火災想定2回、地震津波想定2回）、1回は町と合同でセンター全体の火災想定訓練（消火訓練含む）でした。

（5）権利擁護、苦情処理

- ・事業所で加盟している、湘南西地区苦情解決委員会への苦情の申し出はありませんでした。
- ・A-netのオンブズマンによる訪問相談会を年間10回実施しました。文書による申し入れはありませんでした。

（6）事故報告、ひやりはっと

- ・事故報告1件（死亡）→送迎車でのお勤途中に車内で様態が急変、救急搬送されたが、搬送先の病院にて死亡確認。県へ報告しました。
- ・ひやりはっと3件→利用者同士のトラブル（2）、利用者の短時間の所在不明

2 かたつむりの家（就労継続B型、生活介護）

（1）本人中心の支援体制

- ・二つの事業を一体的に運営する中で、日常的に30～40名の利用者が大きく3グループに分かれて活動しました。グループごとの目標としては、「働く意欲を高めて安定して作業に取り組める環境づくりに努める。」「作業のみならず、多種多様なプログラムを提供することにより、安心して過ごせる場づくりに努める。」ことを掲げてきましたが、現実的には様々な特性を持った方々が混在する中、利用者一人一人の要望により丁寧に対応することに心がけてきました。
- ・場面場面で見れば、傾聴、人間関係の仲裁や調整、日常的なマンツーマン対応のほか、通院の付き添いなど非効率ではあっても必要な支援も多々ありました。

（2）活動内容の充実

- ・主に就労継続B型で行っている受注作業は、大口の取引先3社のほかセンター清掃や、厚木市内の作業所からの発注が続いています。特別養護老人ホームの清掃は時間帯や送迎体制で調整がつかず、年度途中で終了しています。
- ・常設販売では、平成26年7月より平塚市役所内で始まったワゴンショップ「ありがとう」の売れ行きが好調で、パン・焼き菓子で月平均10万円を超える売り上げとなっており、収入の中でも大きな割合を占めるようになりました。また、平塚市内の和菓子屋（個人商店）でもクッキー類を納入できるようになりました。
- ・生活介護で作っている製品、アイビー電車（ビーズクラフト）は様々な機会で大変好評をいただいておりますが、材料であるビーズが製造中止により調達する

ことが難しく、現在休止状態です。再開の目途は立っていません。

- 作業以外の活動では、別表の内容で実施しました。作業に追われウォーキングやプールは思うように実施できませんでした。27年度の課題です。絵のクラブやコラージュなどの表現活動は利用者にも好まれ、月1回の開催を楽しみにしている方も増えました。
- また、平塚市内の喫茶店からトートバッグの製作を依頼され、絵のクラブで帆布に描いてもらった絵を裏地に使ったオリジナル製品に結び付けることも始めました。

(3) 授産会計の健全化

- 収入は販路拡大、ロスの軽減により前年度を上回りましたが、赤字解消には至っていません。利用者の工賃については、当初控えめな支給にしましたが、前年度の収入を上回ったので年度末に一時金として支給しました。

3 サポートセンターぱれっと

(1) 利用者ニーズの引き出しと利用増の働きかけ

- 現利用者との連絡を密にしながら、要望には極力応えるようにしました。その中で利用時間が増えた方がいました。また新規の利用者もありましたが、悪天候などによるキャンセルや利用も休止する方もあり、その結果、年間の利用実績は前年度を上回ったものの、県が求めている基準の時間には181H足りない状況になりました。(別紙参照)

(2) ヘルパーの確保

- ヘルパーは年度初めに1名増員しましたが、年度途中で2名が登録を解除しました。